

# 2018-2019 ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2610 TOYAMA CITY ROTARY CLUB

国際ロータリー第2610地区  
富山シティーロータリークラブ

国際ロータリー/クラブ番号 31803  
創立 1996.7.27 承認 1996.8.21



NO. 38号

令和元年6月24日発行

## 前回例会の記録

### 第986回 通常例会

とき 令和元年6月17日(月)  
ところ 富山第一ホテル13階「ルミエール」  
進行 SAA 五本幸二さん

- 開 会 点 鐘 高田会長
- ソ ン グ 斉 唱 我等の生業
- ゲ ス ト 紹 介 富山県バレーボール協会 会長 西川友之様
- 会 長 挨 拶 高田会長
- 幹 事 報 告 齊藤幹事
- 各 委 員 会 報 告
- 誕 生 日 御 祝 濱 尚さん(6/23)、神田尚子さん(6/22)、稲田しのぶさん(6/23)
- 卓 話 「審判台から見たバレーボール —審判見聞録—」  
富山県バレーボール協会 会長 西川友之氏
- 閉 会 点 鐘 高田会長

### ■ 出席報告 ●出席率向上にご協力をお願いします。

当 日	6/17(月)	45(11)/81	55.56%
前 回	6/10(月)	55(17)/81	67.90%



### 2019-2020年度 夜間例会 創立記念懇親会 開催

- と き 令和1年7月22日(月) 18:30~
  - と ころ 富山第一ホテル3階「天平の間」
  - 会 費 10,000円
  - 余興は、「やえももさん」に華麗なる歌をご披露いただきます。
- ※出欠につきましては、7月8日(月)までにご返信お願い致します。



6月の  
ロータリーレート  
1\$ = 110円  
5月は、  
112円でした。



### ニコニコボックス

- 孫に会いに、福山へ行ってきました。 奥野義一郎さん
- 4人目の孫が令和元年5月末に生まれました。ハカタ美人になりそうです。 野崎 保さん
- 母の一周忌。 河上弥一郎さん ●誕生日祝をいただきました。 松本由次さん

### 本日の予定6月24日(月)

ところ：富山第一ホテル

通常例会 12:30~13階「ルミエール」

【卓話】高田会長、齊藤幹事、五本SAA  
退任ご挨拶  
現・新会長幹事バッジ交換

### 次回の予定7月1日(月)

ところ：富山第一ホテル3階

新会員イフォーメーション 11:30~「楓の間」

理事役員会議 12:00~「梓の間」

通常例会 12:30~3階「天平の間」

【卓話】奥野会長、広野幹事、福島SAA  
新任ご挨拶

### 【中華バイキング】

- ・蟹チャーハン
- ・豆乳坦々冷麺
- ・パンバンジーサラダ
- ・季節野菜と海老の あっさり炒め
- ・冬瓜と豚の角煮
- ・杏仁豆腐



富山シティーロータリークラブ

例会日：月曜日 12時30分

会 場：富山第一ホテル3Fまたは13F

富山市桜木町10-10 TEL(076)442-4411

事務所：富山第一ホテル5F

富山市桜木町10-10 TEL(076)441-1737 FAX(076)441-2824

事務局携帯 090-8703-1996 携帯メール toyamacityrc@docomo.ne.jp



## 「審判台から見たバレーボール —審判見聞録—」

富山大学名誉教授

富山県バレーボール協会 会長 西川友之氏

1977年から2002年まで国内外（アジア、世界の各地）でバレーボールの審判をしてきました。審判を引退後70歳になるまで、日本協会の審判委員長（正確には審判規則委員長と言います）、国際バレーボール連盟のルール委員会やアジアバレーボール連盟の審判委員会の委員として、主にルールの修正・改正や審判員の養成と指導に携わり、また、トーナメントにおける審判の管理運営の仕事を行って来ました。日本協会では、理事として業務運営に関わり、公益法人後は評議員として「役員（理事）の選任」や「ガバナンスのチェック」を携わって来ました。試合の主役はもちろん選手です。審判は裏方として試合の進行、運営を行います。オーケストラに例えれば選手は演奏者であり、審判は指揮者でしゅか。どんなに素晴らしい演奏者がいても指揮者に問題があれば聴衆が感激するコンサートにはなりません。決して良くない状況ですが、審判が目立つときがあります。この場合、何らかのトラブルが発生していると言っているでしょう。感動的な試合では審判が目立つことはありません。この卓話では、審判員あるいは役員として試合に関わり体験し見聞きしてきたことをお話ししたいと思います。審判という違った切り口から話題を提供することで皆様にスポーツに対する関心を深めて頂き、より楽しくスポーツを観戦していただければと思います。

### 国際審判への道

私が初めて「審判（バレーボール）」に関わったのは、1977年に開催されたワールドカップ砺波大会のときでした。それからアルゼンチンの「2002世界選手権」で引退するまで約25年間審判活動を続けてきました。1964年の東京オリンピックで大松監督率いる「東洋の魔女」が金メダルを獲得したことによってバレーボール熱が急速に高まりました。そして1972年、ミュンヘン・オリンピックで松平監督率いる全日本男子の金メダルによってバレーボールの人気は沸騰しました。バレーボールは急速に国際化し、国際大会や日本リーグといったトップ大会が全国各地で開催されるようになりました。日本バレーボール協会は国際大会を効率的に運営するために、もともと東京、大阪周辺にしかいなかった国際審判員を全国9ブロックに配置することにしました。国際審判員になるためには、満40歳までに国際バレーボール連盟が主催するレフリー・コースを受講し、筆記試験、口頭試問、実技試験に合格することが条件でした。日本協会は全国9ブロックと東京、大阪からA級審判員各1名を推薦させ11名からなるレフリー・スクールを設け、スクール生を国際連盟主催のレフリー・コースに推薦することにしました。講師にはベテランの国際審判員が就き、指導にあたりました。北信越ブロックでは、国際審判員がいなかったため、養成が急務でした。北信越代表の一期生が仕事の都合によりリタイアしたのでA級候補になりたての私が急遽ピンチヒッターとして推薦されました。A級でない審判員がスクール生になることは異例中のことです。一年間オブザーバー扱いで一期生の仲間に入りました。審判のエリートが集まり「レフリー・スクール」での研修は、決して生やさしいものではありませんでした。日本リーグトップのチームで我武者羅に研修を積みました。今思うと我ながらよく辛抱し頑張ったと思います。1986年6月、国際審判員への道であるレフリー・コースを受講しました。チェルノブエリ原発事故後の直後、モスクワで一泊し、ブルガリアのソフィアへ行きました。ヨーロッパを中心に30名の仲間が参加し、アジアからは私達のほかに北朝鮮から2名が参加しました。彼らは平壤から列車でナホトカに着き、シベリア鉄道でモスクワ、ブカレストを経由し、約10日間を費やしてソフィアにやってきました。また、当時鎖国政策をとっていたアルバニアからも2名が受けました。スポーツ界だから可能な国際交流を初めて経験しました。チエスカスポーツクラブのっホテルで1週間にわたり理論と実技の講習が行われ、その後筆記試験、口頭試問が行われました。実技試験は東欧における男子の国際大会として有名なソフィア・カップがその舞台でした。大会の代表者会議で、ホルバイ先生（国際バレーボール連盟審判委員長）から参加国代表に我々受講生が紹介され、翌日から実技試験が行われました。私は決勝戦ブルガリア対ポーランドの主審を割り当てられました。当時選手としては世界一、210cmのブルガリア英雄、ガネフ選手のスポーツマンシップに反する行為にイエローカードを出したところ、バルカンの熱烈なファンからコインが投げられました。閉講式で試験結果が発表され、筆記、実技試験ともベリリー・グッドの修了証を受け取ったときの「達成感と安堵感」が忘れられません。閉講式後のパーティーでは、北朝鮮からやって来た二人も合格し、満面の笑みを浮かべて踊っていたこと、普段は大人しいけれども感情の起伏の激



しいバルカンの人々など、懐かしく思い出します。国際バレーボール連盟（FIVB）は、1947年に設立され、パリに本部が置かれました。その後スイスのローザンヌに移り、アコスタ会長の時に、古い城を購入して内部を大改造し、現在の本部になりました。場所は、IOC（国際オリンピック委員会）本部に隣接し、レマン湖に面した風光明媚な所です。対岸にはフランスやエビアンやフランスアルプスを見ることができます。240以上の国・地域がFIVBに加盟しています。会長は4代目になり、アリ・グラッサー氏（ブラジル）が就いています。

## 見聞録

### 1. 外国人とのコミュニケーション

国際審判員は言語・文化・宗教など異なる国々の人々と一緒になって試合の運営を行います。そのため、互いの文化や習慣を予め知っておくことが大切です。

《エチケット・マナーについて》FIVBの審判委員会主事を長く務め、アジアの審判の父と慕われた池田久蔵先生から、最初に教えていただいたことはエチケット・マナーに関することでした。「絶対に左手で握手してはいけない。左手は不浄な手であり、握手で左手を出すことは相手を侮辱したことになる」とか、「韓国では、特に目上、歳上の人に対して礼を尽くしなさい」とか「YES、NOを身体で表現する時、我々とは真逆のジェスチャーで表現する民族がいる。インドでは相手の意見に頷く時、首を左右に振るから間違えないように」など、海外へ行ったとき相手と接触する時の心得を教えてくださいました。多少話すことが出来なくても、エチケット・マナーを心得ていれば通ずるのです。

《アラブのレフリーから学んだこと；人間関係を損なう宗教問題》国際審判員になりたてのときでした。初めて審判員としてFIVB公認のJapan Capに参加しました。キューバ、中国、ロシア、ソ連、アメリカ、韓国など世界のトップチームが参加しその年の世界一を決める大会でした。Neutral Refereeとして招待されたジャマール審判（バーレーン）と私との間で起きたことについてお話ししたいと思います。東京からスタートしたこの大会も前半が終わり、後半の関西に移動しました。役員の宿泊ホテルはアコスタ会長お気に入りの大阪プラザホテル。後半戦が始まった京都府立体育館でのこと、ジャマールは、彼の割当試合が終わったので、突然、「体育館から宿泊先の大阪プラザホテルに戻りたいので車の手配を頼む」と私に伝えました。JTBの宿泊輸送担当者にタクシー手配をお願いしましたところ、秋の行楽真っ盛りの京都しかも休日、道路は大渋滞、タクシーが到着するまで30分から1時間はかかるとのこと、それを伝えたらジャマールは大変怒りました。日本のような交通機関の発達した国で出来ないわけがない、直ぐに手配しろの一点張り、挙句の果て「アラブに来たらお前も同じ目に合わせてやる！砂漠の真ん中に置き去りにしてやる！」悪態つく始末に驚きました。今も「眼には眼を」ハムラビ法典が生きているのかと驚いたものです。トラブルの原因はどうやら午後の礼拝が出来ないということにあったようです。厳格なイスラム教徒の彼が礼拝出来ないことは大問題です。礼拝に使う小道具をホテルに置き忘れたため、すぐにホテルに戻る必要があったようです。ジャマールにすれば、初めての日本、日本では何事も時間に正確でスケジュール通り物事が運ぶものと考えたようです。また、大会の前半で宗教談義をし、信仰する神はと云う問いに対して、一般的に日本の宗教は多神教で、八百万の神を信仰しており、唯一絶対神を持たず、あえて言えば自然崇拜かな、などと話していたものですから、彼の宗教観に差し障ったのかも知れません。後で、イスラムの人々の信仰・習慣について事前によく理解しておけばよかったと思ったものです。

《コミュニケーション力としての英語》国際審判員にとってコミュニケーションスキルとして英語は非常に大切です。英語の理解不足のため気まずい思いをしたりすることも多々あります。元会長の松平さんからよく言われたことに「日本人だけで固まっていなくて、出来るだけ外国人と一緒にいなさい」と言われ、トーナメントの期間中はお互いの意思疎通を図るようにしてきました。食事はもちろんのこと観光やショッピングなど出来るだけ行動をとることで語学力不足を補ってきました。英語が母国語の人には、小馬鹿にしたような話ですが、FIVBでは、Bad English is good, Good English is bad」というジョークがあります。国際連盟やアジア連盟のミーティングでは、いろんな国の言葉が飛び交います。母国語が英語の人は多くないのです。しかし、会議での公用語は英語です。万人にわかるように「やさしく・ゆっくり・簡潔・明瞭」に話さないということ。今日では、英語を話せない人はFIVBでは活動できませんし、審判員も含め流暢な英語でコミュニケーションを取っています。むしろ問題は母国語を英語にしている人々にあります。それぞれ特有な訛りがあり、慣れるまで大変です。1993年サンパウロでのことです。ワールドリーダー・ファイナルが開催され、FIVBから4人の審判員（カナダ人ピーター・ヘンリー、アメリカ人のニール・ルプケ、アルゼンチン人のウィリー・パレーデスそして私）が指名されました。アメリカ人のニールの訛りは酷くて非常に解りにくい英語でした。あまり酷いので、ミーティングの時、ビギナーの私にもわかるように「FIVE Official Language=Bad English」を使ってくれと言ったところ、そこにいた全員が同意してくれました。カナダ人のピーターは「ニール！お前の英語は英語じゃない！俺にもわかるようにちゃんと正しい英語を話してくれよ！」と、全員大笑いになりました。ヨーロッパ諸国を走る国際列車では、非常にわかり易い社内アナウンスをしています。以後、出来るだけゆっくりわかり易く話すようにしています。

2. 審判台から 審判台は孤独な世界です。一度審判台に上がると、全て、自分一人で判断・処理しなければなりません。

《練習にまさる解決策はなし》審判員も人の子、当然失敗もします。決定的な問題を起こさないためには、経験が何よりも必要です。眼の前でおきた明らかなブロックのボール・タッチを見逃し、選手からクレームが付き問題となるケース、全く問題とならないケースがあります。顔見知りで互いによく知っている審判委員にはラツキーがあるようです。解決策は、日頃からの練習に尽きます。チームに足繁く出向き、よく練習することが何よりの解決策となるのです。現役の頃、暇を見ては、富士フィルム、日本鋼管、松下電器、日立、東芝、ユニチカなど日本リーグ（現V1）の強豪チームに押しかけ練習しました。ちなみに、富士フィルム・チームは、南足柄工場にありました。富山から新平湯温泉、平湯、安房峠を越え、松本から中央高速に乗り、一宮御坂から御坂峠、河口湖、御殿場、松田から南足柄まで約7~8時間、何度か車で通いました。今振り返れば嘘のような話です。

《審判の判定に対する異議申し立て「プロテスト」》FIVBでは、スムーズな大会運営を行うために、審判の判定に納得できない場合「プロテスト」する権利が認められています。審判の判定に対して「プロテスト」したいチームは大会のコントロール委員会に5000ドルを支払い、当該の判定について裁定委員会の開催を要求します。裁定委員会の結果「プロテスト」が正しい場合は判定が覆り、「プロテスト」を要求したチームに5000ドル返します。また、「プロテスト」が間違っていた場合、5000ドルは裁定委員会の開催費としてFIVBに没収されます。私が主審をした、男子ワールドカップのブラジル対オランダ戦のことです。この試合はブラジルにとってオリンピック出場を決定づける非常に大切な一戦でした。試合後のジルソン選手のジャンプサーブのアウトの判定についてブラジルからプロテストされ、その日の夜中、ジュリー委員長から呼び出しがありました。行ってみると裁定委員会が開かれ、プロテストされたライン判定について審議中でした。委員長から当該審判としてどのように判定したのか説明を求められました。私は判定に至った経緯を詳細に説明しました。ブラジルのジルソン選手が、私の右側コート右端のサービスエリアから強烈なジャンプサーブを相手コート左奥に打ち込みました。私の目線からすると、ちょうど、右前方から左後方に対角線上に弾丸サーブが通過しました。サーブの着地点はオランダ選手の影で確認出来ませんでした。際どいケースでした。私は瞬時に左コートのエンドライン担当のラインズマン（#3）と右コートのサイドライン担当のラインズマン（#4）のシグナルを確認しました。「二人のラインズマンとも、全くの迷いもなく、アウトのシグナルを示しました。日本のラインズマンは世界一であり、私はアウトの判定を下しました」と説明し裁定委員会を退席しました。その後、裁定委員会はアコスタ会長に最終判断を仰ぎ、会長の判断「ライン判定は審判に専断事項である。主審の判定が最終決定である」という明確なものでした。その「プロテスト」は退けられ、私の判定通りとなりました。2日後のことです。キューバが破れ、ブラジルのオリンピック出場が決定しました。ブラジルのサミー団長から「ニシごめん。不愉快な思いをさせて申し訳なかった」という言葉がありました。「プロテスト」で審判の判定を覆した裁定があります。1992年バルセロナ五輪2日目バレーボールの男子予選リーグ、日本対米国戦は、いったん米国に勝利と決まったが、一夜明けて日本の逆転勝利となった。フルセットの熱戦の末、五輪史上初の3連覇を目指す米国の勝ちとされた試合だったが、国際バレーボール連盟は、翌日に開いた裁定委員会で「第4セットは審判の失態で負けた」と主張する日本側の抗議を認める異例の裁定をくだした。結果、試合は3-1で日本の勝ちと、明暗が覆った。主審のルール適応ミスが起きたのは、セットカウント2-1と日本がリードした第4セット。日本は14-13のマッチポイントを迎えたが、ここで米国のサムエルソンが判定に不服を訴え、主審から「イエローカード」を受けた。これは同選手がこの試合で受けた2度目の「イエローカード」であり、サムエルソンは自動的に反則の「レッドカード」となるはずだった。ラリーポイント制になる以前の当時のルールによれば、この場合、「反則」となった選手の相手チームは、サーブ権があれば1点を、ない時はサーブ権を取れることになっており、サムエルソンが2度目の「イエローカード」を受けた時は、日本側にサーブ権があった。つまり、日本に勝利を決める1点が加えられるケースだったが、主審はそのまま試合を続行した。結局、最終セットまでもつれ日本の逆転負けとなった。大古監督は試合終了後に、ジュリーに激しくアピールし、FIVBにも、「審判の失態で負けた」とプロテストし、異例の勝敗が逆転する結果になった。オリンピックの歴史に残るスキャンダラスな出来事となった。当該審判員は割当から外され、その後心不全で亡くなるという不幸な結果になりました。また、その時のジュリー委員長もFIVBの副会長から外れ、病死した。FIVBは、再発防止のため、ジャッジ・カンファレンスを設け、スコアシートを改善した。現在はチャレンジシステムというビデオ判定を導入しています。

### 3. 健康問題

国際審判員の中でもFIVBの公式大会の決勝・準決勝の指名を受けるFIVB Refereeには健康の維持管理が義務付けられました。健康管理に万全を尽くしていても、試合前は極度の緊張状態から下痢や頻尿といった体調不良に陥りやすくなります。眠れない時などは酒でも飲みたいのですが、試合当日の朝のミーティングでその割当が発表され、試合開始45分前にはアルコールテストが行われるような状況では、酒を飲むことはなかなか出来ませんでした。試合前には適度な緊張感を保つため食事の制限をするなど、とにかく心、身体のコンディショニングには気を使いました。腹が満ちた状態ではいい審判できないようで、試合前の食事は控えていました。FIVBは、現在、試合に耐えうる体力があるか、精神状態は健全であるかなどについて、大会ごとに審判員のヘルス・チェックを行っています。

《アルコールテスト》ポーランドのグダニスクで開催された世界選手権でのことです。試合直前のアルコールテストに引っかかったことがありました。試合前のアルコールテストで、身に覚えのないのに検知器が反応し、非常に焦ったことがありました。アルコールテストに引っかかると試合からは外されてしまいます。それまでの努力が水の泡となりかねません。私はFIVB Refereeでしたので、なおさらあってはならないことでした。FIVBの医事委員長 Dr. エレンコフさんがジュリーとしてその場に居り担当医師を兼ねていたことは幸運でした。原因は、朝食べた皮の付いたぶどうやオレンジが胃の中で発酵したとの Dr. の判断で、審判するのには差し障りないということになり、主審をやりました。

《水あたり》ソフィアのレフリー・コースでは、水あたりによる下痢で3日間苦しみました。ホルバイ先生が心配なさり、たびたび体調を気遣っていただきました。当地でもらった木炭を飲みながら試験を受けました。それ以後、海外では歯を磨く場合でもみなラルウォーターを使い、生水を飲まないようにしています。

《発熱・下痢》ブラジル遠征では初熱し、座薬を使いながら審判をしました。ワールドリーグでは下痢止めを服用しながら審判しました。何度か苦い経験をしてきました。下痢止めと解熱用座薬は私の海外旅行の必携薬でした。

### ビデオ判定と審判員の眼（判断）

さて近年、テレビ等の映像技術、IT技術の革新によりスポーツにおける審判ミスジャッジが問題となっています。バレーボールでは、2014年開催の世界選手権から、チャレンジシステムと呼ばれるビデオ判定を導入しています。FIVBでは、①ライン判定②ブロック等のワンタッチボールの判定③ネットタッチの判定④アンテナに触れる⑤ラインの踏み越し⑥ボールがインコートに落ちたにもかかわらず審判が見逃したケースの6つのケースについてチャレンジを認めています。ライン判定については、テニスでも導入されている「ホークアイ・システム」を導入しています。CGでボールのイン、アウトを示します。「ホークアイ・システム」とは、ハイスピードカメラとボール・トラッキング技術を基に、ボールの着地点をCG化しアリーナの大型ビジョンやテレビを使って映像を示すシステムのことを言います。その他のケースでは、ハイスピードカメラで捉えた映像を再生し、チャレンジ・レフリーの確認で判定します。今年度からFIVBのネーションリーグでは、審判実績の優れた国際審判員のOBがビデオ判定にあっています。この秋開催されるワールドカップで運用され、来年の東京オリンピックでは更に改良された「チャレンジシステム」が導入されることでしょう。しかし、レーボールという競技特性においては、まだまだ人の眼、審判員の技術による判定が重要です。ビデオ判定の導入には多大な経費がかかり、国内トップリーグのV1では、費用対効果から審判員の誤審が一番多い「ライン判定」と「Block Touch」でビデオ判定を実施しています。スポーツの判定における真髄はスピードにあります。チャレンジシステムといえどもたびたびの試合の中断は決してよくありません。バレーボール本来のリズムが消失し、単調なボールゲームに戻ってしまい面白さが半減します。FIVBやVリーグでは、出来るだけ中断の少ないスムーズなゲーム運営を審判員に求めています。近年改正したクイック・スブスティチューションや、レフリー間のコミュニケーションをスムーズに行うためのウォークトーカーの使用などはその一端です。また、映像処理の技術にはまだまだ改良すべきことがあり、主・副審の眼と判断にまさる方法以外に今のところ良策はありません。むしろ、ビデオ判定の導入で審判員の眼・判断能力が衰えることこそ問題です。スポーツにとって決していいことではありません。時代は、スポーツの世界にますます透明性を求めていくことになるでしょう。スポーツのコアは単純、明快にあります。人々はレフリーにフェアな判定を求めています。ビデオ判定の導入により、判定プロセスがブラックボックス化するのを防がなくてはなりません。審判の眼と判断が最終決定となります。より一層の審判の研鑽を願うとともに、皆様方のご理解とご支援をお願いし今日の話をお閉じしたいと思います。

### 「2019 きれいにせんまいけ大作戦・富山湾ウェーブ」参加者募集

- 日 時 令和1年7月7日（日） 集合、清掃開始 6:00（60分程度）
- 集合場所 岩瀬浜海岸 岩瀬浜第一駐車場公衆トイレ付近の受付ブース
- 清掃場所 岩瀬浜海岸
- 服 装 紺色のクラブTシャツを着用、スニーカー等で、ご参加ください。
- 駐 車 場 岩瀬浜第一駐車場、岩瀬浜第二駐車場
- そ の 他 ・当日は小雨決行となります。 ・軍手、ごみ袋は準備いたします。  
・清掃に参加された方は、メイクアップができます。



### 2019-20年度地区職業奉仕セミナー開催

- 日 時 令和1年7月28日（日） 14:15~16:00
- と ころ 石川県地場産業振興センター第5研修室
- テーマ 「職業奉仕について（仮）」
- 講 師 若林パストガバナー（地区職業奉仕委員会カウンセラー）

※ご参加されます方は、  
7/1（月）までに  
ご返信をお願いします。



株式会社 ケンテック

- 環境計測関連機器 ■分析機器・装置
- 真空機器 ■理化学機器
- 実験室設備 ■化学飼料・食品添加剤

弊社エンジニアがお客様の要求を満足させる、真空コンポーネント部品の製作・装置の設計製造も承っております。



プラズマCVD装置



超高真空グローブボックス

## 株式会社 ケンテック

〒939-2701

富山県富山市婦中町西本郷 436-52

TEL. 076-424-2806 FAX. 076-424-2807

代表取締役社長 米田 憲司

この街とこれからも  
ずっと一緒



富山信用金庫

<http://www.shinkin.co.jp/tomishin/>

〒930-0051 富山市室町通り一丁目1番32号

TEL 076-492-7303

常勤理事 鷺塚 一夫



イメージキャラクター  
とみたん

# 富山シティロータリークラブ スケジュール

## 6

2019 月 June



6月の  
**サインメイクアップ**  
4日(火)第一ホテル  
富山みらいRC  
創立記念懇親会のため  
サイン時間 9:30~13:30  
11日(火)電気ビル  
富山RC  
創立記念懇親会のため  
サイン時間 9:30~13:30  
13日(木)電気ビル  
富山西RC  
早朝例会のため  
サイン時間 9:30~13:30  
19日(水)グランテラス富山  
富山西RC  
年度末懇親会のため  
サイン時間 9:30~13:30  
20日(木)電気ビル  
富山西RC  
夜間例会のため  
サイン時間 9:30~13:30  
21日(金)電気ビル  
富山南RC  
年度末懇親会のため  
サイン時間 9:30~13:30  
24日(月)ANAホテル  
富山大手町RC  
年度末懇親会のため  
サイン時間 15:30~19:30

日	月	火	水	木	金	土	
						1	
2		3 通常例会 (13階ルミエール) 【理事会】12:00~5階「藤の間」 【卓話】第2回 I. D. M. 報告会	4 第一ホテルみらい	5	6	7	8
9 南RC合同競技会と懇親会	10 夜間例会 年度末懇親会 18:30~ 富山第一ホテル3階「天平の間」	11 電気ビル富山	12 現新クラブアセンブリー	13 電気ビル富山西	14	15	
16	17 通常例会 (13階ルミエール) 【卓話】「審判台から見たバレーボール—審判見聞録—」富山県バレーボール協会 会長 西川友之氏	18 第2分区現新会長幹事会議	19 グランテラス富山中	20 電気ビル富山西	21 電気ビル富山南	22	
23 30 国際青少年交換委員長会議	24 通常例会 (13階ルミエール) 【卓話】高田会長、齊藤幹事 五本SAA退任ご挨拶 現新会長、幹事バッジ交換	25 24 ANAホテル大手町	26	27	28	29	

## 7

2019 月 July



日	月	火	水	木	金	土
1 第2分区新聞社表敬訪問	1 通常例会 (3階天平の間) 【新会員化フォーメーション】11:30~「楓の間」 【理事会】12:00~「梓の間」 【卓話】奥野会長、広野幹事 福島SAA新任ご挨拶	2	3	4	5	6
7 2019きれいにせんまいけ大作戦	8 通常例会 (13階ルミエール) 【卓話】「What's Up」 (株)キタイチ代表取締役 米屋保雄氏 (元会員)	9 第2分区会長幹事会議	10	11	12	13
14	15 法定休日「海の日」 例会はございません。	16	17	18	19 電気ビル富山南	20
21 広報委員長会議	22 夜間例会 創立記念懇親会 18:30~ 富山第一ホテル3階「天平の間」 18:00~ 2018-19年度会計監査	23	24	25 電気ビル富山西	26	27 会員拡大委員長会議
28 29 ANAホテル大手町	29 通常例会 (13階ルミエール) 【卓話】富山県議会議員 種部恭子氏	30 クラブ奉仕A合同委員会	31			

7月の  
**サインメイクアップ**

19日(金)電気ビル  
富山南RC  
新年度懇親会のため  
サイン時間 9:30~13:30  
25日(木)電気ビル  
富山西RC  
新年度懇親会のため  
サイン時間 9:30~13:30  
29日(月)ANAホテル  
富山大手町RC  
ビアガーデン例会のため  
サイン時間 15:30~19:30

